



辰巳小だより

江東区立辰巳小学校
校長 松下 由美子
学校だより 第8号
令和5年12月1日

(ホームページアドレス) <http://tatsumi-sho.koto.ed.jp>



カーライルの「諦めない心」

副校長 檜本 泉

先日11月11日(土)、音楽会を開催しました。当日は多くの保護者の皆様から、温かい声掛けや拍手をいただきました。アンケートにも「学校で中休みに、また家でも練習していて、この日のために頑張っていたのがわかるくらい、素晴らしい合唱と演奏でした。」「元気いっぱい演奏に、こちら元気を貰えました。」「音楽の名の通り、音を楽しんでいて、こちらまで笑顔になりました。」というような感想をいただきました。子ども達への励ましと称賛をありがとうございました。

令和5年も残り1ヶ月となりました。12月は、年の始めに立てた目標への努力や成果を振り返る月です。本校では「キャリアパスポート」を使い、子どもたちが各自のめあてや計画を立て、自分の歩みを振り返りつつ、学びや生活を調整できるようにしています。

さて、目標を達成するためには、「最後まで諦めずにやり遂げる」ことが重要です。

カーライルという19世紀のイギリスの歴史家の例を挙げましょう。ある日、彼は書き上げたばかりの『フランス革命史』の原稿を友人に貸したそうです。しかし、友人のお手伝いさんが、間違えてその原稿をストーブで燃やしてしまいました。それを知ったカーライルはひどく落胆し「もう同じものは書けない。」と気力も失ってしまったそうです。が、彼の妻が「このまま書かないで済む位なら、最初から書く必要がなかったのよ。」と言ったのです。カーライルはこの言葉に奮起しました。なぜならそれは、彼にとってどんなことをしても書かなければならないテーマだったからです。「本そのものよりも、完成させた自分の意志が立派なんだ。そして、再び書き起こすことは、もっと立派なことなんだ。」と。彼は机に向かい、もう一度始めから書き上げたのです。そして誕生した本は、160年以上の年月を経た今なお、世界の名著と讃えられています。(内村鑑三『後世への最大遺物』より)

将来、子どもたちは予想外の困難に遭遇することもあるでしょう。そんな時、どう考え、どう行動するのか、小さい時からの習慣がものを言うのではないのでしょうか。「辛くても歯を食いしばり、自分のもつ力を出し切る」その積み重ねが、きっと人生を切り開く力を形成するはずです。「諦めない心」で1年間努力してきた子どもたちに、教職員一同、労いの声掛けをしたいと思います。

11月17日(金)1年1組担任をされていた 先生が第2子の女の子を出産しました。
3100グラムで、母子共に元気で過ごしているそうです。